

アーティストたちは、  
アメリカで生きる知恵と糧を得て、  
芸術と苦悩を学んだ。

アメリカは彼らに惜しみなくチャンスを与え、  
時にすべてを奪い、  
現在、彼らから学ぼうとしている。



# SYMPOSIUM

日系アメリカ人アーティスト研究シンポジウム

2016年10月9日(日) 13:00~18:30 (開場12:00)

岡山大学 鹿田キャンパス Junko Fukutake Hall

入場無料・申込不要・定員200名

100名様に岡山県立美術館「国吉康雄展」招待券 or 国吉康雄ポストカードセットプレゼント

写真：スミソニアン・アメリカンアート・ミュージアムでの展示を待つ「ミスターエース」(国吉康雄作/福武コレクション)

## 特別トーク 千住博 (日本画家) 「国吉康雄を読み解く」

千住博 ~ 日本画家。1958年東京生まれ。東京、京都、ニューヨークを拠点に制作活動を展開し、ヴェネツィアビエンナーレ絵画部門でアジア系初となる名誉賞を受賞。直島の「家プロジェクト」では空間設計も手がけるなどその活動は多岐にわたる。2015年、高野山真言宗総本山金剛峰寺の主殿2部屋の襖絵の制作を行うことが決定。2016年、外務大臣表彰を受賞。2007年~2013年、京都造形芸術大学学長。現在同大学教授。公益財団法人徳川ミュージアム相談役。

基調講演 高橋秀治(前愛知県美術館副館長)「アメリカに生きた画家」

特別講演 山村みどり(日本学術振興会博士研究員)「国吉以後のニューヨーク~草間彌生の場合」

映像証言 ブルース・ドーフマン(アーティスト・国吉康雄の生徒)「新証言」

他登壇者 ~ 杉村浩哉(栃木県立美術館特別研究員) / 赤木理香子(岡山大学大学院教育学研究科) / 奥村一郎(和歌山県立近代美術館) / 山田隆行(早稲田大学文化構想学部) / 片山泰輔(インタビュー映像/静岡文化芸術大学大学院文化政策研究科長) / 才士真司(国吉祭2016ディレクター・岡山大学大学院教育学研究科国吉康雄研究講座)

主催：岡山大学大学院教育学研究科国吉康雄研究寄付講座 / 岡山県 / 岡山県備前県民局 / (公社)岡山県文化連盟  
おかやま県民文化祭実行委員会 / 文化がまちに出る！地域いきいきプロジェクト in 備前実行委員会

共催：(公財)福武財団

助成：(公財)福武教育文化振興財団

後援：アートプロジェクトおかやま / (公社)おかやま観光コンベンション協会

特別協力：株式会社協同プレス / そごう美術館 / 岡山大学 Junko Fukutake Hall

協力：出石しらゆり「国吉康雄勉強会」 / 岡山県立美術館

制作：クニヨシパートナーズ(国吉祭2016実行委員会)



公益財団法人  
福武教育文化振興財団





# 日系アメリカ人アーティスト研究シンポジウム

近代日本は多くの移民をアメリカに送り出してきました。彼らの中にはアメリカにその才能を発見され、教育の機会とチャンスを活かし、国吉康雄のようにアーティストとしてアメリカに生きた者が多くいます。そんな先人たちの活躍を受け、第二次世界大戦後も多くの日本人アーティストがアメリカに渡りました。今、アメリカでの国吉康雄の再評価が進んでいることを受け、その議論を日系アメリカ人アーティストに広げ、その活動を紹介します。

## 日系アメリカ人アーティストを知ること

2015年4月から8月まで、ワシントンDCのスミソニアン・アメリカンアートミュージアムで国吉康雄の回顧展が開かれ、大きな反響を呼びました。国吉康雄はかつてアメリカを代表する画家として高い評価を受けていましたが、1960年代以降、アメリカの社会的動向と美術動向の陰に隠れ、評価される機会が失われてきました。同様にこれまで見過ごされてきたマイノリティー出身のアーティストを見直す傾向が現在のアメリカには強く見られます。また日本でも、渡仏派と比べてその研究・顕彰の動きが鈍かった渡米派のアーティストを再検証しようという動きが見られ、岡山の「国吉康雄」、和歌山の「石垣栄太郎」、栃木の「清水登之」というようにアーティストの出身県を中心にその研究活動が盛んになってきています。このシンポジウムでは、国吉康雄ら渡米派のアーティストたちの創作と選択を検証します。また、ヴェネツィアビエンナーレの栄誉賞に輝き、世界で活躍する日本画家の千住博氏を迎え、現在のニューヨークに創作の拠点を置くこと。敬愛しているという国吉康雄について語って頂きます。

## 国吉祭2016の開催

国吉祭は岡山市出石町出身の洋画家で社会活動家の国吉康雄(1889-1953)の作品と研究資料をコンテンツとした体感型アートイベントで、2013年から開催されています。4回目となる今年の国吉祭は、岡山大学に設置された「国吉康雄研究講座」の講義の中で企画、運営を試み、国吉作品のような地域芸術文化資源を活用し、楽しみ、次世代へ伝える主体的な人材を育て、地域の行政、教育、文化、企業との連携事業として企画されました。10月22日と23日はルネスホールにて、創作ワークショップ、国吉康雄作品美術鑑賞教育活用実践報告、岡山大生によるJAZZライブやフラッシュモブなど、無料イベントを実施いたします。また、後楽館高校の「クニヨシ部」が開発した国吉グッズの販売会も行います。

### 国吉祭2016

10月8日(土)～10月23日(日)  
出石町界隈・ルネスホール 他

国吉康雄プロジェクトHP

www.yasuo-kuniyoshi-pj.com/

## プログラム 開場 12:00・開会 13:00・閉会 18:30(予定)

13:00 開会の挨拶 才士真司(国吉祭ディレクター・岡山大学)

13:05 基調講演「アメリカを生きた画家」高橋秀治(前愛知県美術館副館長)～アンドリュー・ワイエスの研究者として国際的に知られ、アメリカンアートの企画展の数々を手がける。2004年の「国吉康雄展 - アメリカを生きた画家」を担当。国吉康雄作品を所蔵する多くのアメリカの美術館を訪ねた視点から、国吉をめぐる状況の変化を報告する。

13:45 講演「清水登之の受容と栃木県立美術館」杉村浩哉(栃木県立美術館特別研究員)～栃木県出身で国吉康雄と同時代にアメリカで活動した清水登之(1887-1945)の研究と紹介を続けている。今回は地域の基幹美術館として1972年に開館した栃木県立美術館が清水登之についてどのような活動を行ってきたかを報告する。

14:20 講演「KUNIYOSHIとアメリカのジャポニズム」赤木理香子(岡山大学教育学部)～近現代の美術教育史を研究。なぜ国吉がニューヨークのアートシーンに受け入れられたのかを、アメリカにおけるジャポニズムの流行や、美術教育者アーサー・ダウ(1857-1922)による影響について考察する。

14:40 講演「1920年代～日系アーティストたちの美術的・社会的関心」山田隆行(早稲田大学文化構想学助手部)～国吉康雄研究の第一人者であるトム・ウルフ氏(バード大学)の指導のもと、国吉をはじめとする戦間期のニューヨークで活躍した日系人アーティストを研究。排日の問題と邦人美術家組織の設立や、当時描かれた作品の分析から彼らの生活、アメリカ社会への視線を報告する。

15:10 休憩 ①

15:20 報告「オバタチウラを知っていますか?」松本紗弥(岡山大学大学院)～小圃千浦(オバタチウラ/1885-1975)は岡山出身の日系アメリカ人アーティストで、太平洋戦争中の日系人強制収容所内に美術学校を作った人物として知られています。今回は岡山大学大学院の松本紗弥が進める小圃千浦研究のポイントを報告する。

15:35 映像インタビュー ①「アメリカの文化政策について」片山泰輔(静岡文化芸術大学大学院文化政策研究科長)～現代社会が芸術を支える社会システムを研究。市民権を持たない日系移民たちが、なぜアメリカでアーティストとして認められるようになったのか、背景としてのアメリカの芸術文化政策と支援のあり方について紹介する。

15:50 特別講演「国吉以後のニューヨーク～草間彌生の場合」山村みどり(東京文化財研究所 日本学術振興会博士研究員)～ニューヨーク近代美術館講師を務め、フォーダム大学などで教鞭を取る。今回、国吉康雄らによって草間彌生(1929-)から戦後世代の日本人移民の活躍の場がニューヨークに出現したが、すぐに戦後第二世代の画商たちのグローバルな市場独占主義によって制圧されるなど、日系人作家が排斥された問題に言及する。

16:20 鼎談「なぜ、渡米派は評価されない?」高橋秀治×奥村一郎(和歌山県立近代美術館)×才士真司～石垣栄太郎(1893-1958)ら渡米画家と日系移民についての研究を重ね、独自の視点から発信している和歌山県立近代美術館の奥村一郎氏を迎え、渡米派アーティストたちの評価や知名度が低い理由について考える。

17:00 休憩 ②

17:15 特別トーク「国吉康雄を読み解く」千住博(日本画家・ニューヨーク在住)～ニューヨークを拠点に活躍する千住博氏に、アメリカで創作する理由や国吉がニューヨークの日系社会に残した「遺産」などについて才士真司が伺います。

18:00 映像インタビュー ②「証言～ブルース・ドーフマン」～晩年の国吉の愛弟子であり、現役のアーティストであるブルース・ドーフマンが、国吉康雄との日々について語ったインタビュー。昨年末の日曜美術館「国吉康雄」では使用されなかった秘蔵映像を公開する。

18:20 閉会

## 岡山大学Jホール(鹿田キャンパス)

岡山市北区鹿田町2丁目5-1

2016年10月9日(日曜日) 13:00～18:30(開場12:00)

入場無料・定員200名・申込不要・先着順

- 岡山駅東口バスターミナル「5番乗り場」から「2H」系統の岡電バスで「大学病院」構内バス停下車 約10～15分
  - 岡山駅東口バスターミナルから「12」・「22」・「52」・「62」・「92」系統の岡電バスで「大学病院入口」下車 約10～15分
  - 岡山駅前(ドレミの街前または高島屋入口)から八見運輸の市内循環バス「医大めぐりん」で「大学病院入口」下車 約10～15分
  - 岡山駅タクシー乗り場から タクシーで約5～10分
- ※ ホールには専用の駐車場がございません

問い合わせ tel : 086-251-7633(岡山大学大学院教育学研究科)

